



CONTENTS

- 企画展 玉—古代を彩る至宝—
- 常設展のみどころ 復元模型「あさぎり凌雲閣(浅草十二階)」を掘り下げる
- キュレーターズ・チョイス 江戸博コレクションから ジョルジュ・ピギー「O・HA・YO」
- 研究の散歩道 ふたつの「柳橋」—荷風の見た「隅田川兩岸一覽」
- 新オリジナル動画『TOKYO Before/After』公開中!

玉——古代を彩る至宝——

平成30年10月23日(火)～12月9日(日)
常設展示室内5F企画展示室

玉(JAMA)をつなぐ地、
魂がつなぐ時

古くより人々は、身を飾る美
しさだけでなく、魂(霊)タマゴに
通じる神秘性を見だし、玉を

特別な存在として大切に取
扱ってきました。古代の権力構
造や地域間関係、さらには精神
世界を説明するうえで、玉は極
めて重要な手がかりとなりま
す。いにしえの人々の美意識の
結晶ともいえる玉の歴史の意義
を5つの構成でご紹介します。

▼第一章 玉の源流

日本で玉が出現するのは旧石
器時代末頃のことです。当初は
動物の牙や骨を素材にしていま
すが、縄文時代末頃にはヒス
イを加工した美しい石製の玉が

作られるようになります。弥生
時代になると、ガラスをはじめ
多彩な材料の玉が現れ、有力者
の墓に納める風習が始まりま
す。

▼第二章 玉作りの技術

北陸、山陰、関東では、玉に適
した石材が豊富に産出され、加
工技術が発達しました。古墳時
代には、大和に専業工房がおか
れ、量産体制が整います。ところ
が6世紀、玉作りは出雲に集約
され、唯一の生産地域となりま
した。ここでは玉の各生産地を
概観し、高度な玉作りの技術を
解き明かします。

▼第三章 玉飾りの世界

古墳時代は、最も玉が珍重さ
れた時代で、成熟期を迎えます。

各地の古墳には、玉飾りで美し
く身を飾った有力者たちが葬ら
れました。祭祀の場でも神秘的
な力を持つ玉が捧げられまし
た。この章では古代の人々が玉
に込めた意味に迫ります。

▼第四章 海を渡る玉

日本製と考えられるヒスイ製
勾玉が、朝鮮半島の王陵墓から
出土するなど、玉は海を渡りま
した。一方、古墳時代には、中国
や朝鮮半島、さらにはシルク
ロードを介して運ばれて来
た玉もありました。こゝ

では東アジアの玉

たちを飾った
宝飾品

重要文化財 伝福岡市周船寺出土(福岡県)
ヒスイ製勾玉付金鎖頸飾
公益財団法人白鶴美術館蔵

軍冨之古墳(和歌山県)
金製勾玉
和歌山市教育委員会蔵

赤：上野1号墳(鳥根県) メノウ製勾玉
鳥根県埋蔵文化財調査センター蔵
緑：奥才34号墳(鳥根県) 碧玉製勾玉
松江市教育委員会蔵





国宝
藤ノ木古墳(奈良県)
銀製鍍金空玉
文化庁蔵



西都原111号墳(宮崎県)
ガラス製小玉と勾玉・管玉
宮崎県立西都原考古博物館蔵



重要文化財
酒巻14号墳(埼玉県)
玉飾りを身につけた人物埴輪
行田市郷土博物館蔵

information

企画展「玉—古代を彩る至宝—」

開館時間：9:30～17:30、土曜日は19:30まで。

入館は閉館の30分前まで。

休館日：10月29日、11月5日・12日・19日・26日、12月3日の月曜日

◎別途観覧料でご覧になれます。

料金：一般600円、65歳以上300円、学生その他の料金は当館ホームページをご覧ください。
主催：東京都、東京都江戸東京博物館、古代歴史文化協議会(埼玉県、石川県、福井県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県)

関連事業

連続ミニ講座

「古墳時代の玉類～14県の玉文化～」

日時：会期中の毎週土曜日 17:00から40分程度/毎週日曜日 16:00から40分程度

※常設展示室5階、中村座前にて(事前申込不要) ※詳細は当館ホームページをご覧ください

の紹介を通して、壮大な文化交流の軌跡をたどります。
▼エビローグ玉のゆくえ
日本の歴史上、玉は神話や伝承、儀礼、信仰に欠かせない存在でした。最終章では、歴史に息づく神秘的な玉の変遷を紹介し
ます。

本展は、古代の歴史や文化とゆかりの深い14県からなる古代歴史文化協議会と共同で開催します。日本各地から国宝・重要文化財を含む選りすぐりの至宝を集結します。古代の玉の魅力をどうぞご覧ください。
(学芸員 西村直子)

常設展
の
みどころ

東京ソーン「市民文化と娯楽」コーナー 復元模型
のようかんかく
「凌雲閣（浅草十二階）」を
掘り下げる



写真1 凌雲閣復元模型
復元年代:1890年(明治23)、縮尺1/10

英国人の技師ウィリアム・パルトンが基本設計を行い、1890年(明治23)に竣工した凌雲閣は、「浅草十二階」の名で親しまれた展望塔です。高いところから辺りを眺める楽しみは、明治時代、新たに生まれ

た庶民の娯楽でした。高さ約60mのタワーは目立つ存在で、東京市内を代表する歓楽街だった浅草六区とともに都市のランドマークとしての役割も果たしました。当館は、凌雲閣研究の第一人者であった民

間の研究者、喜多川周之さんが集めた関係資料を喜多川コレクションとして収蔵しており、これらを中心とする版画、絵葉書、写真、文書類などをもとに、模型を制作しました(写真1)。

浅草のシンボルだった凌雲閣は、1923年(大正12)9月1日に起こった関東大震災で8階から上が倒壊し、残り部分も倒壊の危険があるため、同月23日、工兵隊によつて爆破されました。その後、建築史の研究者らに顧みられることもなく、1960年代の時点で、設計図や建設地点も不明という状況でした。石版の版下職人の傍ら、関係の絵葉書や版画類などを戦前から収集し、凌雲閣の研究をライフワークとしていた喜多川さんは、都内の専門機関を訪れて、建設地点の調査を重ね、その地点に凌雲閣のイラストを記した開業時の周辺地図を1963年(昭和38)1月発行の『浅草寺文化』創刊号に発表しました。その後、1981年(昭和56)7月、住宅工事の際、凌雲閣の基礎の煉瓦が見えられ、建設地点

がようやく判明しました。喜多川さんが工事現場に通って撮った写真やそれをもとに書いた実測図(図1)なども遺されています。今年2月、この現場と道路を挟んだ向かいの住宅の改築工事の際、

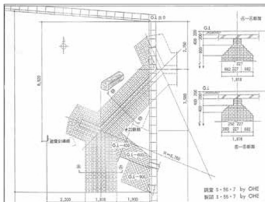


図1 1961年の住宅工事で発見された凌雲閣遺構実測図
喜多川周之の作成
(『台東区文化財調査報告書5
集 浅草六区 興行と街の移り
変わり』1987年)



写真2 2018年2月の住
宅工事の際、現れた塚五の
基礎と八角形の土台
(撮影・筆者)

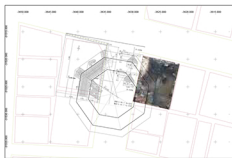


図2 凌雲閣位置想定図
台東区教育委員会 提供

クリートの一部が地中から現れま
した(写真2、図2)。当館に勤めて
まもない頃、「喜多川コレクション」
の整理を担当した筆者は、1998
年に喜多川さんが遭遇した工事
現場での心境を追体験する思いで
今回の現場に向かい、凌雲閣の基礎
を自分の目で見る機会に恵まれた
ことに深く感動しました。当館で
は、2010年(平成22)から喜多

川さんの生涯をかけた研究につい
て、喜多川コレクションを中心に編
纂する作業を行い、その成果は当館
調査報告書第22集と第26集として
刊行しました。
台東区教育委員会と連携を図り
ながら、最新の調査成果を今後の
展示に反映させていきたいと考えて
います。

(学芸員 松井かおる)

キュレーターズ・
 CHOICE
 Vol. 1

江戸博コレクションから
「O・H・A・Y・O」
 ジョルジュ・ピゴ
ー

1872年(明治5)、東京府で
最初に施行された軽犯罪法である
「裸体又ハ袒裼シ股脛ヲ露ハシ醜体
ヲナス者」と、太股を出したり上半
身裸になる行為について、罰金が科
せられるようになった。この法律は
欧米の価値観からみて、肌を露出す
るなどの「非文明的」な行為を規制
するためのものであった。
ところが、この法律が施行されて
およそ10年が経過した1883年
(明治16)、フラン
ス人風刺画家
ジョルジュ・ピ
ゴーが出版した
画集「O・H・A・
Y・O」において、
煙管を煙らせな
がら、裸姿で芝居
見物をする丁髷
姿の男性と、その
隣で子供に乳を



「O-H-A-Y-O」 ジョルジュ・ピゴ 画
1883年(明治16) 資料番号90203677

やる女性が登場する。「肌の露出」を
規制する法律が整備されても、実際
の生活習慣はすぐには変わらな
かったであろう。
文明化されたことを欧米諸国に
PRしたい明治政府にとっては、あ
まり公にしてほしくない不都合な
事実である。一方、フランス人のピ
ゴーは、日本独自の風習にこそ価値
があるとし、表層的な欧米化を擲
論しつつ、市井の人々を紹介し続け
た。

(学芸員 田中裕二)

ふたつの「柳橋」——荷風の見た「隅田川兩岸一覽」

学芸員 湯川説子・文

文豪・永井荷風（1879～1959）は、洗練された品位ある文体で、明治、大正、昭和の移り行く東京の姿を、多くの作品に表したことで知られている。

その日記「断腸亭日乗」の記述に

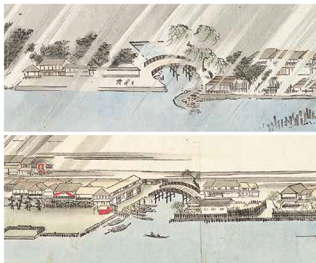
よると、荷風の独居・偏奇館に、鶴岡蔵水（生没年不詳）の描いた絵巻「隅田川兩岸一覽」（1781年・天明）が、旧知の古書店主によって持ち込まれたのは、1935年（昭和10）12月10日のことだった。春夏秋冬の風物詩や名所のほか、幕府の関連施設などを東岸と西岸の二巻に分けて表したこの絵巻は、一帯の景観を活写した資料として現在も広く知られている。木版刷、手彩色であることから同種の作品が複数現存しているが、そのうちのひとつが当館の所蔵となっている。

景についての感想をいくつか記した。中でも「本柳橋北詰に大なる柳一本あり。柳橋ノ北詰にも柳あり」と、ふたつの「柳橋」に注目しているのは興味深い。



「元柳橋西国邊景」小林清親 画
資料番号07200614
荷風は本資料と同作品も所蔵しており、『日和下駄』刊行の際、挿絵として掲載した。

「隅田川兩岸一覽」西岸より元柳橋部分 鶴岡蔵水 画
1781年（天明1） 資料番号63200124



同上 柳橋部分

荷風は、日記にその跋文を書き写すとともに、描かれた風景

を東岸と西岸の二巻に分けて表したこの絵巻は、一帯の景観を活写した資料として現在も広く知られている。木版刷、手彩色であることから同種の作品が複数現存しているが、そのうちのひとつが当館の所蔵となっている。

絵巻を入手した荷風は、日記にその跋文を書き写すとともに、描かれた風景についての感想をいくつか記した。中でも「本柳橋北詰に大なる柳一本あり。柳橋ノ北詰にも柳あり」と、ふたつの「柳橋」に注目しているのは興味深い。

「本柳橋」とは、両国橋の南、隅田川西岸の薬研堀出口に架かっていた橋のことだ。明治後期に堀の埋め立てによって取り壊された。一方の「柳橋」は、神田川が隅田川へ注ぐ川口に架かる橋で、数度の架け替えを経て現在に至っている。成島柳北の「柳橋新誌」初編（1874年・明治7）によれば、「故柳橋」の名は橋の傍らにあつた柳に由来し、「柳橋」は、柳原堤の端にあることに因むという。荷風が、かねてから橋詰の柳に注目していたことは、その随筆『日和下駄』（1915年・大正4）に、両国橋より稍河下の溝に小橋あつて元柳橋と云はれ、こゝに一樹の老柳ありしは柳北先生の同書にも見え、また小林清親翁が東京名所絵にも描かれてある。（略）この柳いつの頃枯れ朽ちし

や知らず。今は河岸の様子も変り小流も埋立てられたれば元柳橋の姿も見えなくなつた。」とあることからうかがえる。

「隅田川兩岸一覽」に描かれたふたつの「柳橋」に柳を発見できたことは、失われたものへの哀惜の念を深く持つ荷風にとって、この上ない喜びであつたに違いない。



図書室から
お知らせ

幕末から明治、 江戸から東京

2018年(平成30)からさかのぼること150年、1868年は幕末維新史、また江戸東京の歴史において節目の年でした。この年3月の西郷隆盛と勝海舟との会見をもとに4月11日に江戸城が「無血開城」され、これにて幕府は名実ともに消滅。7月17日に江戸は東京と改称され、9月8日には改元されて明治の世となったのです。(※月日は旧暦)

明治150年・東京150年にあたる今年、図書室では12月9日(日)まで「幕末明治―西郷隆盛」と東京150年の「図書コーナー」を併設しています。ご利用をお待ちしています。

休室のお知らせ

蔵書の整備・点検のため、下記の日程で休室いたします。ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご了承ください。

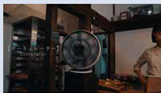
休室期間：2018年12月10日(月)～2019年1月4日(金)

*2019年は1月5日(土)から開室いたします。

新オリジナル動画 『TOKYO Before/After』公開中!

『TOKYO Before/After』は、国内外の方々へ向けた当館の新しい紹介動画です。今年4月の再オープンを記念し、制作しました。この動画は、“Look the past, find the future (過去を覗くと未来が見えてくる)”をテーマに、江戸東京の文化、美意識がシンクロする“粋”な映像に仕上がっています。「協調性」や「美意識」、「遊び」など9つのテーマがテンポよく展開していき、江戸の町人の暮らしを垣間見ることが出来ます。登場する「手動式扇風機」は実際に当館で製作した複製品を使用しています。

動画共有サービスYouTubeで配信中です。当館ホームページ「えどはく動画コンテンツ」や館内1階スクリーンでも公開しています。ぜひ一度ご覧ください。



左:Before「手動式扇風機」/右:After「サーキュレーター」

YouTube: <https://www.youtube.com/watch?v=YelPngm70a4>

えどはく動画コンテンツ: <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/special/movie>



2018年7月撮影

すくすく育て、たてもの園の桜！

小金井の地は、江戸時代から玉川上水、小金井堤の桜で有名です。そして都立小金井公園は現在、都内有数のお花見スポットとなっています。公園の一角を占めるたてもの園もまた、隠れた桜の名所といえます。

なかでも、野外展示場に足を踏み入れ、初めての桜を「アントラップス広場」の桜の木々は、小金井公園の桜を受け継いだ巨木で、美しい木々、涼しい木陰、紅葉、冬枯れと、四季の景色が楽しめます。しかし、高齢で衰弱した木々が増えたため、やむを得ず伐採措置が続いています。桜のない植栽はさびしいのです。

この植栽計画に、新たな苗木が現れました。伐採前に桜を採取し採木した「二世桜の苗木たちです。まだまだ幼いので、アントラップス広場で日光を浴び、大きくなる準備をしていますが、ゆくゆくは園内各所に植えられるべく予定です。すくすく育て、桜の子！ これからも、多くのお客さまをお迎えしていく予定です。

催しのご案内 秋期ふれあい体験教室

●講師:ふれあいボランティア ●いづれも参加無料(ただし常設展示室で開催の教室は観覧券が必要)
●変更・中止の場合は当館ホームページでお知らせいたします。

事前応募制教室 定員:20名 対象:一般

●歴史散歩 江戸の玄関口四谷見附から新宿御分までを歩く

日時:10月21日(日) 13:00~16:00
(雨天の場合10月28日(日)に順延)
応募締切:10月6日(土)



●歴史散歩 慶喜終焉の地と後楽園

日時:12月1日(土) 13:00~16:00
(雨天の場合12月8日(土)に順延)
応募締切:11月17日(土)

後援はがき(62円×2=124円)にて下記①~⑤を明記の上ボランティア事務局までお申込みください(締切日消印有効)。
①希望講座名 ②住所 ③氏名(ふりがな/2名様まで) ④年齢 ⑤電話番号
〒130-0015 墨田区横綱1-4-1 江戸東京博物館
ボランティア事務局 ふれあい体験教室係

当日受付教室

*開催場所は、常設展示室5階ミュージアム・ラボ(10月6日(土)を除く)

●秋の建て染め体験

日時:10月6日(土) 12:30~14:30(12:20~会場前で整理券配布)
定員:50名
対象:小学生以上
場所:3階江戸東京ひろば 北側体験所 *雨天などによるひらば閉鎖時は中止

●歌舞伎の鳴り物を鳴らしてみよう

日時:10月20日(土) ①13:00~13:30 ②14:30~15:00
対象:3歳以上

●ときめきキノ体験

日時:10月28日(日)、11月25日(日) 10:30~12:00(受付終了11:30)
定員:25名様
対象:3歳以上

●和算パズル

日時:11月3日(土・祝) 13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小4以上

●反古紙で折る小物

日時:11月3日(土・祝) 13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小学生以上

●8枚羽根のかざぐるまを作る

日時:11月17日(土) 13:30~15:00(13:20~会場前で整理券配布)
定員:30名
対象:小学生以上(ただし小3までは大人と一緒に)

●舞扇子で遊びましょう

日時:11月18日(日) 12:30~13:30
定員:30名
対象:小学生以上

●万華鏡で遊ぼう

日時:11月24日(土) 10:30~12:00
(10:20~会場前で整理券配布)
定員:15名
対象:3歳以上(ただし小3までは大人と一緒に)

●ぼち袋を指ろう

日時:12月2日(日) 13:00~15:00
定員:30名
対象:小学生以上

ミュージアムトーク

●常設展示室のみどころを学芸員が解説します。 ●日時:毎週金曜日16:00から
●常設展示室5階の日本橋下までお乗りください。所要時間は約30分です。

文明開化東京 10月5日・12日

江戸の商業 10月19日、11月2日

企画展「五・古代を彩る宝室」みどころ 10月26日、11月9日・23日

江戸城と町割り 11月16日

市民文化と娯楽 11月30日、12月7日

モダン東京 12月14日・21日

江戸東京博物館 NEWS Vol.102

お問い合わせ 03-3626-9974(代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

乗船のご案内 JR南武線「国学院」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「国学院」(江戸東京博物館前)、A3・A4出口から徒歩1分
都バス線27・南28・門33系統 墨田区内循環バス南九郎一丁目「都営国学院前」(江戸東京博物館前)下車、徒歩3分

発行日 2018年(平成30)9月21日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
制作・印刷 美術出版社 デザインセンター

表紙解説

隅田川三美人図
歌川国貞(三代豊国) 画 1854年(安政1)
資料番号90209665~7



向島の高級料亭大七を模した版画。月明かりしかなない舟の様子や暗い色で描かれているのに、灯火具によって明るく照らされた店内は色彩豊かに描かれている。江戸時代には用紙に合せて様々な大きさの灯火具が使われていた。この作品では、資料と呼ばれる欄外や歌名の入った段打が使われているのが見てとれる。

(学芸員 堀江友子)
展示期間9月29日~10月28日
(常設展示室5F「舟の暮らし」コーナー)